

令和 8 年度白石市総合計画・総合戦略推進委員会

1 開催概要

●日時 令和 8 年 9 月 2 5 日（金）午後 2 時 0 0 分～午後 4 時 1 0 分

●場所 白石市防災センター 2 階 会議室

2 委員

	区分	団体等名称・役職	氏名	出欠
1	産業	白石商工会議所会頭	朝倉 秀雄	欠
2	産業	白石市観光協会会長	佐藤 善一	
3	産業	白石市認定農業者連絡協議会長	木須 敏文	欠
4	教育	公立大学法人宮城大学 事業構想学群特任教授	徳永 幸之	
5	教育	元宮城教育大学特任准教授	小関 俊昭	
6	金融	七十七銀行白石支店長	高木 勇人	
7	金融	仙南信用金庫業務推進部 業務推進課 課長	堀田 康郎	欠
8	メディア	一般社団法人スポーツ・ラボ 理事長	児玉 聡	
9	士業	中小企業診断士	佐藤 勝幸	(WEB)
10	学識経験	白石市歴史文化アドバイザー	麻生 菜穂美	欠
11	学識経験	プランニング開代表・アトリエ自遊楽校 主宰	新田 新一郎	欠
12	地域組織	白石市自治会連合会長	紺野 澄雄	
13	地域組織	斎川公民館事務長	佐藤 幸枝	欠
14	子育て	白石刈田地区父母教師会連合会長	佐久間 朱夏	欠
15	子育て	子育て世代代表	大庭 知子	

3 白石市出席者

	役職	氏名
1	市長	山田 裕一
2	副市長	村上 忠則
3	副市長	大庭 豪樹
4	教育長	半沢 芳典
5	総務部長	佐藤 純哉
6	教育部長	木下 聡子
7	総務部未来戦略課長	高橋 雅美
8	総務部未来戦略課課長補佐	菊地 昌彰
9	総務部未来戦略課	引地 昭憲
10	総務部未来戦略課	佐藤 海斗
11	総務部未来戦略課	加藤 翼

4 配布資料

- ・次第・名簿
- ・資料1 白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略 令和7年度実施状況
- ・資料2 重点戦略・分野目標別指標 評価一覧
- ・資料3 令和8年度白石市民アンケート集計結果
- ・資料4 令和8年度の主な取組【施政方針より】
- ・資料5 第3期白石市総合戦略 骨子案
- ・資料6 第3期白石市総合戦略 素案
- ・令和8年度 第1回白石市総合計画・総合戦略推進委員会事前意見と市の考え

5 議事概要

○市長挨拶

本市では、第六次白石市総合計画や白石市まち・ひと・しごと創生第二期総合戦略など、計画に掲げる目標達成に向けて様々な事業を展開しているが、毎年度、進捗状況の確認と成果の検証を行うため、白石市総合計画・総合戦略推進委員会を設置し、本日は令和7年度の実績等をご審議いただくこととしている。委員の皆様におかれては、専門的知見をはじめ、普段の生活から感じていることなど、様々な角度からご提案、ご意見を賜りたい。

本市では、人口減少、少子高齢化という大きな課題解決に向けて、（仮称）白石中央スマートインターチェンジと周辺整備に取り組んでおり、来年度の開業に向けて整備を進めている。また、周辺に整備する工業団地については、これまでは立地企業が決定してから工業団地を整備する「オーダーメイド方式」にて進めていたが、用地の即座の引き渡し

できないなどの理由から、立地協定の締結には至っていない。しかしながら、宮城県との協議を重ね、あらかじめ工業団地の造成を行う「レディーメード方式」で進めることが可能となり、9月定例議会に関連する予算等を上程し、可決をいただいた。企業誘致の実現に向けて大きく一歩前進したと受け止めており、更に積極的な企業誘致を推進して参りたいと考えている。

白石市の発展に取り組んでいけるよう、企業、市民、行政が一体となって取り組んでいくにあたり、皆様の力をお借りしたいので、本日は忌憚のないご意見を賜りたい。

○審議

(1) 「第六次白石市総合計画」の令和7年度実施状況及び令和8年度の取組について

事務局より、資料1から4をもとに説明。

【委員からのご意見等】

- 資料をみると、社会増減のところで、他市町に比べると減少が激しいということで、若い世代が出ていくことが、やはり問題だという気がする。
今回のアンケートについて、LINEを活用したということだが、従来の回答と傾向が変わってきているかもしれないので、丁寧に結果を見た方が良いかと思う。今回のアンケートについて、従来と変わってきた傾向はあるのか。
- ⇒ 明確な分析は難しいところだが、本市に住み続けたい割合は、3年前と比較すると徐々に上昇しており、一定の評価をいただいていると認識をしている。ただ、社会減の状況は、15歳から19歳、20歳から24歳の転出は増えており、抑えきれない状況にある。アンケートの「白石市に住み続けたいか」という設問についても、10代から40代の数値は、全体と比較すると低い数値となっている。
- LINEによる調査は回答が増えたということだが、白石市に対して愛着のある方に回答者が偏る危険性がある可能性もあるので、慎重に検討していく必要がある。

(2) 白石市まち・ひと・しごと創生「第3期総合戦略」について

事務局より、資料5、資料6をもとに説明。

【委員からのご意見等】

- 若年層の減少、流出は非常に課題ではあるが、一旦転出した人が戻りやすくしていく支援も必要ではないかと考える。また、新たな立地企業や地元企業に、白石に戻ってくる方を採用した際にインセンティブを与えるなど地道に努力していく必要があるのではと感じた。
- 歴史的構造物を活用したまちづくり事業について、白石の歴史や文化を知ってもらう大事だと思うが、いざ現地に足を運んだ時に整備されていない場所もあり、講演会等と連動して観光客を呼び込むという部分が足りないのではと感じた。
学力向上について、メクビット（MEXCBT）に取り組んでいるが、それがどのように活用されているのか、市民には見えてこない。学力の向上には、学校と家庭学習、特に家庭学習においていかに有効に使ってもらえるかということが重要であると思う。

空き家対策について、空き家を活用した民泊をやっているところもある。意外と外国の

方、あるいは学生が、例えばゼミや合宿で使うことがある。そういう分野で需要があると聞いている。

⇒ 歴史文化遺産の活用について、本市の一番の核となるのは白石城だと考えている。史跡やその周辺について、施設整備や定期的な活用について対応してきたが、不十分な部分もある。昨年、白石城木造復元 30 周年ということで様々な記念事業を行い、多くの方、特にインバウンド観光客にお越しいただいた。海外でのプロモーションについても、台北最大の旅行博に、白石市のブースを出展している。本市は、歴史遺産という部分において、非常に誇れるものがあるため、白石城を核としたまちづくりをこれからも行っていく。あわせて、多言語対応など歴史遺産・資源の磨き上げを行い、多くの方に来てよかったと思っていただけるような環境整備を進めていきたい。

空き家の活用については、平成 29 年度に空き家調査を実施したが、10 年弱経過し、今年度、再度空き家の実態調査を行っている。前回実施した際には、市全体で 891 棟空き家があった。空き家の所有者にアンケートを実施し、売却の意向、空き家への定住意向など調査したところ、約半数が検討していないということだった。こうした方々に対し、空き家バンクなどの案内を通知している。また、家屋敷課税対象者に対して案内を通知している。空き家対策として一番重要なことは、管理不全にならない、周辺の方に迷惑をかけない、所有者が責任を持って管理するということであり、様々な観点から情報発信を行い、有効活用につなげてたいと考えている。

本市の空き家特有の課題は、市街地の空き家が多いという点である。そういったところを、例えば飲食店などに活用できるよう、商工会議所などと連携していくなど、空き家は今後の街中の賑わいを創出するにあたって重要な資源になると考えており、しっかり進めていきたい。

⇒ 教育委員会として、学力問題については、大変重く受けとめている。今年度大きく取り組みの見直しをしているところである。本市の特徴の一つが、家庭学習の時間が相当少ないということであり、この部分の取り組みとして、夏休み明けから指導主事を各学校に派遣し、直接保護者に、本市の子ども達の家庭学習の状況等の説明し、どのように家庭学習を改善していくのかということ、具体的に提案するというような活動を小中学校で進めている。保護者からは、実態を知ることによって、声掛けの仕方であるとか、取り組み方について見直さなければいけないという声をいただいている。学校とともに、教育委員会として今後の取り組みを進めていきたい。

また、AI ドリルをはじめメクビット等々の利活用を進めているが、これも課題があると認識をしている。デジタルの良さ、アナログの良さそれぞれあり、ハイブリッドに、上手く活用しながら、家庭学習だけではなく、授業にも十分活用できるように、教育委員会として各学校とともにこの問題にも取り組んでいきたい。

○ 教育に関連して、私自身の経験や大学生の様子を見て感じるのだが、学校の教育が、テストの点数いかに取らせるか、マニュアル通りに回答を得るための道筋を徹底的に学習させる、そういうところに偏っているのではと感じる。しかしながら、必ずしも考え方は一つではなく、いろいろなアプローチで考えることができ、そこが非常に面白い、いいことでもある。そういった部分をいかに子ども達に感じてもらえるかということが非常に重要だと考えている。自分で興味を持ち、考えて学習していくことが、本当に力がついて

いく、そういうことに繋がると感じている。自然環境や工場、農業などの身近に働く現場で、どのような工夫がなされ、どのようなことが必要なのか見えてくると、学習に対しての興味が湧いていくのではと考えられる。

そういった観点では、白石は環境には恵まれていて、面白い学び方ができるのではと考えられる。その辺りも十分活用していけば、このまちで働いていくということの循環に結びついていくと思う。

- 市民アンケートについて、毎年一番出てくるのが、「子どもを産みやすい環境」とか「子どもを育てやすい環境」という要望である。事前意見にもあるが、産婦人科について、難しい部分もあると思うが、要望の高いところに特化しやっていく必要があると感じている。また、事前意見の中で、仙南2市7町共同で宮城県知事に要望しているとのことだが、どのような要望なのか教えてほしい。

また、現在はSNS等の情報発信が普及しているので、それを利用し、子育て環境や生活環境、白石は生活するにはいいところであるということがどんどん広がっていけば、白石で生活してみようと思える人が増えていくと思う。

- ⇒ 県知事に対する要望について、現在産婦人科や小児科を選択する学生が少なく、医師が不足している状況であり、安全に出産できる環境を整備するため、出産できる病院を選択し、そこに産婦人科医を集中的に配置する体制を整備している。そのような中で仙南地域でも出産できる産婦人科は必要であり、宮城県に協力を要請し、10月からみやぎ県南中核病院において出産できる体制を整えた。しかしながら、継続していくためには、財政的・人的支援が必要であることから、宮城県に対して支援を要望しているところである。

- 出産に関連した事業として、タクシーの事前登録を実施している。予定日の2、3週間前に登録すれば、何かあった際にすぐに駆け付け、病院へ送迎するものである。妊婦の不安を少しでも和らげられればと思い実施しているが、このような妊婦の不安解消につながるようなことをいろいろ実施できれば、白石に帰ってきたいと思う方も増えるのではないかと考えている。

- ⇒ 先日開催したスマイルミーティングでもタクシーの件を伺い、参加者からも非常に助かっているという意見があった。様々な事業を実施していくためには、行政だけで全て成し得ることは難しいため、民間の方がの力も借りながら不安解消につなげていきたい。

- 転出超過について、年齢区分が20歳以上34歳未満となっているが、高校卒業する18歳から手を打つ必要があると考える。参考として、福島県西郷村の人口が増えている。その要因は、工業団地があるということもあるが、施策として18歳で高校卒業した方が西郷村から大学に通う際、新幹線通学の支援を実施している。実際にやるとなれば予算予算上の課題もあるが、費用対効果は高いと思うので、検討してはどうか。

また、工業団地について、レディーメードで団地を整備してから誘致をするというのは大きな前進だと思うが、着工や整備される時期などそのスケジュールはどのように想定しているのか。

- ⇒ 本市では、現在社会減対策を実施するため、職員からの政策提案を実施し、令和9年度からの新規事業について、サマーレビューに着手している状況である。その中で、ご意見いただいた新幹線を利用した通学・通勤に対する支援についても、現在、その対象者や上限金額など、制度を検討しているところであり、令和9年度の新規事業として、実施して

いきたいと考えている。また、同様の検討事項の一つとして、奨学金の返還支援を検討している。今大学に通っている学生の半分は、奨学金を借りて在学している状況にある。大学を卒業してから、奨学金返済し、その返済は長期間にわたっている。新卒であれば、最初のうちは給料が低く、そういう状況で返済しながら生活をするのは大変だと思う。そのような中で、例えば、奨学金の返済を市が支援することで、若年層に対して、白石市への定住、また、市内企業への就職といったところのインセンティブになるのではと考えており、こちらも次年度の新規事業として検討をしている。

工業団地については、9月議会定例会に関連予算を上程し、債務負担行為について可決いただいた。今後については、まず、今年度中に宮城県が計画を作成し、本市では、計画作成のためのアンケート調査などを進めていく予定である。令和9年度に計画を作成し、令和10年度から工事に着手、実際に工業団地を引き渡しできるのは令和12年度中となる予定である。

- 仕事の関係で、蔵王町と白石市の観光パンフレットを取り扱うのだが、蔵王町のパンフレットはとてもキャッチーで分かりやすい。白石のパンフレットはなかなか開いてもらえない。真面目に細かく書いてあるが、読むのに時間がかかり、話しながら進めることが難しい。分かりやすく、キャッチーで、なおかつ白石市のことを簡単にPRできればすごく良いと思う。

先ほど話に出た件について、小さいことでも良いことがたくさん積み重なれば、白石市に好印象を持つ人もいて、そういう人がどんどん増えていけば良いと思う。

また、白石には新幹線があり、関東に帰りやすい、親も来やすいという話を聞いた。関東圏で仕事されたいという方にも、夕方まで勤務しても帰ってきて子どもを迎えに行けるということがぎりぎりできると思う。ぜひPRを簡潔にわかりやすく、魅力が伝わるようにお願いしたい。

- ⇒ PRについて、観光パンフなどが丁寧であることは良いと思うが、まず手に取ってもらうことも重要であり、キャッチーな部分であったり、視覚に訴えたり工夫し、もっと手に取ってもらいやすくする。そういったものを作りたい。

白石市を中心に50キロ圏内には、仙台市、福島市、山形市、南東北3県の県庁所在地があり、1時間を切ってアクセスできる。新幹線の駅もあり、仙台までは1駅14分、福島駅までは1駅12分、さらに新たなインターチェンジも整備し、交通の要衝として、まだまだ発信できるポテンシャルが高いと思う。そういったところ前面に押し出していきながら、新しい政策に結びつけていければ、魅力ある街となっていく、そういうまちであると考えている。

- 地元で就職をしたいと思っている学生はアンケートなどをとると多くいるが、地元での募集企業がないためマッチングが進まない、また、給与面・待遇面で比較すると、大手企業の方が条件が有利であるため、地元企業に就職しようとする方は少ない状況である。そういった中で、白石市、あるいは仙南地域に就職し、住んでもらおうとするためには、地元の中小企業が、自社の企業力を強くしていかなければならないと考えている。このことについては、なかなか自社だけではできないので、ぜひ、自治体に支援をいただけないかと思う。

中小企業庁では、今「中堅企業」という、100億円規模の力の強い企業を地方にたくさん

作っていこうということを重要な柱として進めている。目的としては、給与や就労体系がしっかりした企業を地方に作らないと、人員の確保が出来なくなるといことがある。そのような中で、中堅企業まではいかなくても、地元で10億、30億くらいの企業を作り上げていくところを、自治体でもぜひ支援してほしい。そこに官民が連携して、努力をして、定住できるような環境を作っていければと思っている。

総合計画の達成率について、中でも賑わいづくりに関連する指標が3、40%代で低く、なかなか進んでいない状況もある。自治体だけではできない部分もあるかと思うので、ぜひ官民で連携していくというところで、市の支援が出てくると、産業界も少し変わっていくことができると思う。

⇒ 市としましては、地元の企業にぜひ就職して欲しいという考えがあり、3年前から行っている事業がある。中学生・高校生に地元の企業のPRが必要だと考え、市内の各企業を訪問し、それぞれのPR動画の作成を依頼した。その際、若い方々はTikTokとか動画で情報を仕入れているので、若者に受け入れられるよう、1・2分程度で、若手の社員に自社PRのための動画を作成いただいた。それを一覧にまとめ、企業名やQRコードを添付し、動画で企業の情報、製品情報を発信する。それを見て、企業への関心を高め、就職希望につなげるということを実施している。我々としても、地元企業は、地元の雇用を守っていただいている、大切なパートナーだと考えている。地元企業中小企業、また中堅企業と、企業のPR、魅力発信にも努めていきたい。

○ 参考情報として、秋田県では、中途採用もままならない状況にあり、企業の採用が高校主体に切り替わってきていて、高校2年生の段階から地元就職を斡旋するということを、自治体と産業界が連携して動いていて、かなり成果を上げている。白石市が今取り組んでいることも、市内には工業高校などあるので、ぜひそういった方々が地元に着定できるような情報発信をしてもらいたい。

○市長挨拶

皆様からいただいたご意見を政策に変えて、結果を出していくことが行政の役割である。アンケート等についても貴重なご意見もいただいた。難しいところもあるが、ツールを活用しながら、より多くのデータを集められるようにしていきたいと事務局でも考えている。そういった中で、多くの市民から直接市に対してのご意見やご要望等を伺える機会も作り、皆様の声を政策にしていきたい。